

科目名 (英)	導入教育 Introductory Education	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科医院での臨床経験を有し、豊富な経験をもとに講義と実践を通じて授業する。						
目的	専門科目を学ぶために必要な学習環境を整えることを目的とする。						
科目概要	歯科技工の専門科目を学ぶために必要な様々な技術を、説明や練習を通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工技術を学ぶための「知識・技術・態度」について説明することができる。 ・上記項目について、どのように実践するか、または挑戦するか、実践計画を立てることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験(評価)を受けることができない。 評価は最終日の授業で作成するレポートで行う。詳細は開講時に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	Hand-book of Life Style 歯科技工の基礎知識			事前事後 学習と その内容	【事前学習】最終日に作成するレポートのテーマを読み準備すること。 【事後学習】授業をもとに、最終日レポートのブラッシュアップ。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	必要に応じてプリントやPDFを配付する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	演習	授業で使用する教科書や教材を確認して、授業開始に向けての準備をする。
2	オリエンテーション	演習	授業で使用する教科書や教材を確認して、授業開始に向けての準備をする。
3	オリエンテーション	演習	川島先生特別講義「学校生活を安全に送るために」 多様性を受け入れるために必要な考え方や社会の変化について考える。
4	オリエンテーション	演習	自己紹介 自己開示するとともに、新しいクラスメイトとして関心を持つ。
5	学習環境を整える①	演習	授業で使用する教科書や教材を確認して、授業開始に向けての準備をする。
6	学習環境を整える②	演習	授業で使用する教科書や教材を確認して、授業開始に向けての準備をする。
7	特別講演	演習	目指す将来について、業界の先輩方からアドバイスをもらい「気構え」「身構え」「心構え」の準備をする。
8	基礎学力確認	演習	専門科目を学ぶにあたり基礎学力を確認し、伸ばす部分と補うべき部分を理解しこれからの学習に活かす。

科目名 (英)	情報技術基礎 Fundamentals of Information Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	原田 美穂
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	コンピュータ関連企業、(株)ブレインスタッフコンサルタンツにてネットワーク事業の実務経験を有した講師が、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての授業を行う。						
目的	安全にインターネットを利用できる技術を習得する。PowerPointを利用し、効果的なスライド作成の技術を習得する。						
科目概要	授業の前半では、新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点について、Webメールの活用法を事例を通じて考え、後半では、PowerPointの基本的操作を学び、聴衆者に伝えることを目標にレポート作成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基本的な操作ができるようになる。 ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しくWebメールを活用できるようになる。 ・PowerPointを利用し、聴衆者に伝えるレポートの作成ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「課題提出」を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	e-learning(インターネット上のテキスト)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 e-learning(インターネット上のテキスト)で次回講義までに不明な操作を確認しておく		
参考図書	なし						
特記事項	テキストには、専門学校に必要スキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用します。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	<CCT入門1> タイピング基礎を身につけ、 Windowsの基礎的な操作ができる。	講義	タイピングの基礎と測定をする。 Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基礎的な操作について理解する。
2	<CCT入門2> 情報やWebメールを正しく活用できる。	講義	Webメールの使用方法を理解する。 インターネット情報の理解と、安全な使用方法を理解する。
3	<PowerPoint1 基本操作> プレゼンテーションソフトの 基本操作ができる。	講義	レベル(インデント)の設定や、行頭文字の操作を理解する。 ノートの作成や、スライドショーを実行することができるようになる。
4	<PowerPoint2 表現力を上げる> 図形や画像を活用したスライドを 作成できる。	講義	ワードアートの挿入、画像の挿入、テキストボックスの挿入、 図形の作成と調整ができるようになる。
5	<PowerPoint3 動きを付ける> スライドに動きを付けスライドを 完成する。	講義	画面切り替え効果の設定、アニメーション効果の設定ができるようになる。 リハーサルをするようになる。
6	<PowerPoint4 発表> 作成したスライドを使って発表できる。	講義	作成したスライドを用いての発表を実践する。 リフレクションを通じて発表についての改善点を振り返る。
7	<PowerPoint試験対策>	講義	学習した全学習内容の復習操作を通じて理解を深める。
8	<PowerPoint試験>	講義	規定時間内に指示された内容のレポートを作成することができるようになる。

科目名 (英)	CAD/CAM基礎 CAD and CAM Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	難羽 康博
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として自費技工専門の歯科技工所での実務経験やデンタルCADのトレーニングセンター講師を務めた経験豊富な教員が、デジタルを用いた天然歯形態デザインの指導を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMや3Dプリンターを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。						
科目概要	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しができるようになる。 ・金属床義歯のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるようになる。 ・削りだしたワックスパターンおよびプリントしたレジンパターンの取り扱いが正しくできるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。 【事後学習】毎回の授業内容を復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	CAD/CAM導入編	実習	CAD/CAMの概要と歯科技工における位置付けについて理解できる。
2	デザインの基礎と基本	実習	3Shape Dental System の基本的な使い方—オーダー作成・マウス操作が理解できる。
3	小臼歯単冠の基本デザイン-①	実習	下顎5番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
4	小臼歯単冠の基本デザイン-②	実習	下顎5番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。
5	小臼歯単冠の応用デザイン-①	実習	上顎4番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
6	小臼歯単冠の応用デザイン-②	実習	上顎4番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。
7	小臼歯単冠の応用デザイン-③	実習	上顎5番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
8	小臼歯単冠の応用デザイン-④	実習	上顎5番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。
9	小臼歯単冠の応用デザイン-⑤	実習	下顎4番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
10	小臼歯単冠の応用デザイン-⑥	実習	下顎4番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。
11	大臼歯単冠の応用デザイン-①	実習	下顎6番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
12	大臼歯単冠の応用デザイン-②	実習	下顎6番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。
13	大臼歯単冠の応用デザイン-③	実習	下顎6番のデザイン-③の手順やポイントが理解できる。
14	大臼歯単冠の応用デザイン-④	実習	上顎6番のデザイン-①の手順やポイントが理解できる。
15	大臼歯単冠の応用デザイン-⑤	実習	上顎6番のデザイン-②の手順やポイントが理解できる。

科目名 (英)	美術造形・デッサン Formative Arts and Drawing	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 絵里
		授業形態	実習		無		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
講師紹介	大学と大学院で美術教育について学び、美術専修免許を取得した講師が、デッサンや造形、デザインなど、歯科技工に役立つことはもちろん、日常生活の様々な場面で役に立つ形態の捉え方の授業を行う。						
目的	立体をとらえ、2次元で表現する技術と観察力を習得する。						
科目概要	デッサンや造形、彩色を通して形態のとらえ方や表現力を身につけ、立体的形態の表現力および色彩感覚を養うことを目標とする。						
到達目標	・立体の表現方法の基礎を理解し、評価基準を満たしたデッサン力と着彩を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、評価を受けることができない。 評価は、「提出作品の評価」を100点満点とする。初回授業にて評価の項目を示す。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	オリジナルプリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを読み、授業テーマ・授業内容を 確認することを推奨する。 【事後学習】 授業時間内に課題が終了しない時は、次回の 授業までに終えておくことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	受講に際し、「必要な準備」は筆記用具とオリジナルプリントである。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デッサン(基本形態)	演習	○△□の鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写を理解する。
2	デッサン(基本形態)	演習	○△□の鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写を理解する。
3	デッサン[空き缶・空き瓶]	演習	空き缶・空き瓶を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
4	デッサン[空き缶・空き瓶]	演習	空き缶・空き瓶を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
5	デッサン(手)	演習	・手を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 ・鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
6	デッサン(手)	演習	・手を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 ・鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
7	色彩の基礎	演習	・3原色を混色して12色相環をつくる。 ・トーン表をつくり、明度、彩度について理解を深める。
8	色彩構成	演習	・色が生じさせる感覚について理解する。
9	色彩構成	演習	・色と形を用いて、言葉のイメージを表現する。
10	デッサン[野菜]	演習	野菜を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
11	デッサン[野菜]	演習	野菜を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
12	デッサン[自由課題]	演習	複数のモチーフを観察しながら鉛筆デッサンを行う。 配置や全体バランスを表現するための描写方法を理解する。
13	デッサン[自由課題]	演習	複数のモチーフを観察しながら鉛筆デッサンを行う。 配置や全体バランスを表現するための描写方法を理解する。
14	着採[自由課題]	演習	鉛筆デッサンに着彩を行う。 立体感のある彩色方法を理解する。
15	着採[自由課題]	演習	鉛筆デッサンに着彩を行う。 立体感のある彩色方法を理解する。

科目名 (英)	外国語 Foreign Language	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	ILC講師
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	複数の専門学校で基礎英語、英会話、専門英語などの授業を教えた経験のある日本人英語講師が、さまざまな場面でのロールプレイなどを交えながら英語での基本的なコミュニケーションの授業を行う。						
目的	歯科技工士に必要な基礎的な専門用語を英語で理解し、場面に応じて英語で簡単なコミュニケーションができるようになる。						
科目概要	海外での施設訪問や働く際に必要な英語表現や会話について理解する。						
到達目標	あいさつなど基本的な英語でのコミュニケーションができるようになる。 海外での施設訪問や働く際に必要な英語表現や会話について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科英語」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業の内容を振り返り、新しく覚えたフレーズなど声に出して練習するなどして身に着けることを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/18)	あいさつ	講義	コミュニケーションの基本となるあいさつの英語表現と場面による使い分けを理解する。
2	海外の展示会に参加する①	講義	海外の展示会に参加する際、その道中で必要な英語表現と会話を理解する。 場面: 空港、ホテルなど
3	海外の展示会に参加する②	講義	海外の展示会に参加する際、その会場で必要な英語表現と会話を理解する。 場面: 展示会場受付、展示ブースなど
4	歯科医院での会話①	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 「歯が痛い」
5	歯科医院での会話②	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 「入れ歯を入れたい」
6	歯科医院での会話③	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 その他の場面での
7	まとめ	講義	1～6回の授業内容のふり返しを行う。
8 (7/19)	定期試験/解説	講義	定期試験の解説を行い、理解度を確認する。

科目名 (英)	歯科技工学概論 Dental Technology Overview	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工の重要性及び歯科技工物の概要について理解し、歯科医療に関する全般的な知識を習得する。						
科目概要	歯科医療に関する全般的な知識、歯科に関する専門用語やチーム歯科医療の役割について学ぶ。						
到達目標	歯科医療の概要および歯科チームの役割について理解できる。 基本的な専門用語や器具、材料について理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()内はGPA。欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	入学前から始める！歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究所) Hand-book of Life Style (滋慶教育科学研究所)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の 該当ページをあらかじめ読むことを推奨する。 【事後学習】 毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	歯科技工の基礎知識						
特記事項	内容理解のために、聞いているだけの講義ではなく、適宜問いかけコミュニケーションをとる授業運営を行う。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工用機械、器具、材料	講義	歯科技工で用いる機械、器具、材料の名前と用途を理解する。
2	歯科技工とは	講義	歯科治療の流れと歯科技工を関連させて理解する。
3	歯科の2大疾患とは	講義	歯科の2大疾患について理解する。
4	虫歯になったら	講義	虫歯(う蝕)の段階と、適応する治療と歯科技工流れについて理解する。
5	補綴装置の種類	講義	症例に適応した補綴装置の種類について理解する。 また、患者側からみた長所および短所を理解する。
6	補綴装置の製作順序	講義	補綴装置の製作順序について、症例別に理解する。
7	基礎学力確認	講義	専門用語を理解するにあたり、必要な基礎知識(漢字、化学式、計算など)について理解度を確認する。
8	定期試験/解説	講義	定期試験の解説を行い、理解度を確認する。

科目名 (英)	歯科材料加工演習 II Dental Materials Processing Practice II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科医院での臨床経験を有する教員が、チームで協同作業する意義について授業する。						
目的	歯科技工士が使用する様々な歯科材料及び機器の取り扱い方法について、実際の作業を通じて習得する。						
科目概要	歯科技工士が扱う材料や機器の取り扱いについて学ぶ。様々な実習体験を通して基本操作について理解を深める。						
到達目標	各種材料や使用器具の用途を理解して選択し、効率よく作業を進めることができるようになる。 完成物のイメージを持ち、計画どおりにすすめることによって、時間管理能力や実行力を身につける。 チームでの役割に責任を持ち、完成までやりきる力を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行い100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模型製作プロジェクト	実習	チーム決め、役割分担、製作の計画を立てる。
2	模型製作、製作工程の記録	実習	設計図をもとに、必要な材料や製作手順、役割について、チームで協議し計画・準備する。
3	模型製作、製作工程の記録	実習	役割分担して作業を進める、計画通りに進んでいるか適宜チェックする。
4	模型製作、製作工程の記録	実習	役割分担して作業を進める、計画通りに進んでいるか適宜チェックする。
5	模型製作、製作工程の記録	実習	役割分担して作業を進める、計画通りに進んでいるか適宜チェックする。
6	模型製作、製作工程の記録	実習	役割分担して作業を進める、計画通りに進んでいるか適宜チェックする。
7	レポート制作	実習	製作工程を振り返り、記録をもとにレポートを製作する。
8	完成・展示 実習模型準備	実習	全ての製作物をプロジェクトとして完成・展示する。

科目名 (英)	歯の解剖学 I Dental Anatomy I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し教務経験も長い教員が歯科技工士に必要な永久歯の知識についてわかりやすく授業を行う。						
目的	1本の歯が上下左右どの位置にあるのか判断できるようになるために、歯に関する専門用語と永久歯の形態的特徴の知識を習得する。						
科目概要	歯や口の中を歯科技工士がどのように観察し、表現するのかを、専門用語や永久歯の形態的特徴を捉えながら、実際の口腔内や模型で理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科関係者の共通言語である専門用語を理解することができる。 ・ヒトの歯の全般的な特徴について図を用いて説明することができる。 ・上顎前歯、上顎大臼歯の形態的特徴を理解し、指示した歯の上下左右を鑑別することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を音読することを推奨する。 【事後学習】 前回の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)を復習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 歯の専門家を目指しての第一歩	講義	歯の種類と分類方法。歯の記号と歯式、方向を表す用語を理解する。
2	上顎中切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎中切歯の形態的特徴を理解する。
3	上顎側切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎側切歯の形態的特徴を理解する。また、中切歯と側切歯の相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
4	上顎犬歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、犬歯の形態的特徴を理解する。
5	上顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。
6	上顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。
7	下顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。
8	定期試験/解説	講義	定期試験の解説を行い、理解度を確認する。 試験範囲は1回目～6回目までとする

科目名 (英)	歯の解剖学Ⅱ Dental Anatomy II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し教務経験も長い教員が歯科技工士に必要な永久歯の知識についてわかりやすく授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な歯、特に大臼歯に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯と歯列及び口腔の概説と永久歯の形態的特徴を学ぶ。すべての永久歯を鑑別できることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科関係者の共通言語である専門用語を理解し使うことができる。 ・小臼歯、下顎大臼歯、下顎切歯の形態的特徴を理解し、永久歯の上下左右を鑑別することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を音読することを推奨する。 【事後学習】 前回の内容の確認テスト(穴埋め10問程度)を復習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	下顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。
2	下顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一大臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
3	上顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。
4	上顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、上顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
5	下顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。
6	下顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。
7	下顎前歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎中切歯と下顎側切歯の相違、また上顎切歯との比較、下顎犬歯の特徴を上顎犬歯と比較することで理解を深める。
8	定期試験/解説	講義	定期試験の解説を行い、理解度を確認する。 試験範囲は1回目～7回目までとする。

科目名 (英)	歯型彫刻・デッサン I Tooth Carving and Drawing I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、国家試験に必要な歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
科目概要	歯の形態的特徴を理解し歯型彫刻により表現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ノギス、切り出しナイフの正しい使い方を身につける。 ・各歯の角柱の設計、削り方を理解し実践できる。 ・11(上顎右側中切歯)、13(上顎右側犬歯)の形態的特徴を理解し、面取りを時間以内に実践できる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価の内訳は、実技試験として「選択作品」を30点、「自由作品」を50点、レポート提出を20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし。プリント教材を配付する。						
参考図書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)。他別途、授業内で紹介する。			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、動画を事前に視聴して動作のイメージをつかんでおくことを推奨する。 【事後学習】 毎日30分程度、自主的な練習を推奨する。		
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯型彫刻の意義、重要性 使用する道具(ノギス・切り出し)の使い方	実習	ノギス・切り出しナイフの使い方を習得する。 練習課題は斜面と箱型の削りとする。
2	角柱の設計、削り方	実習	11(1.3倍大)の幅・厚みを理解し、角柱の設計をする。 角柱の削る手順を理解し実践する。
3	角柱の設計、削り方	実習	11(天然歯大)の幅・厚みを理解し、角柱の設計をする。 角柱の削る手順を理解し実践する。
4	11(1.3倍大)の面取り①	実習	面取りの意義を理解し、デモと一緒に11(1.3倍大)の面取りを理解し実践する。 面取りStep1(唇側面観) Step2(隣接面観)の面取りまで進める。 Step2でチェックを受ける。
5	11(1.3倍大)の面取り②	実習	デモと一緒に11の面取りStep3(切縁面観) Step4(隣接面観修正)を理解し実践する。 Step4までチェック完了後は11(天然歯大)のステップ模型を製作する。
6	11(1.3倍大)の面取り③	実習	Step4までチェック完了後は11(天然歯大)のステップ模型を製作する。 11の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～4まで実践する。 面取りにより11の形態的特徴を理解する。
7	11(天然歯大)の面取り①	実習	11の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～4のステップ模型を作成する。 面取りにより11の形態的特徴を理解する。
8	11(天然歯大)の面取り②	実習	11の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～4のステップ模型を作成する。 面取りにより11の形態的特徴を理解する。
9	13(天然歯大)の面取り①	実習	面取りの意義を理解し、デモと一緒に13(天然歯大)の面取りを理解し実践する。 面取りStep1(唇側面観) Step2(隣接面観)の面取りまで進める。 Step2でチェックを受ける。チェック完了後はステップ模型を製作する。
10	13(天然歯大)の面取り②	実習	デモと一緒に13の面取りStep3(切縁面観)を理解し実践する。 Step3までチェック完了後はステップ模型を製作する。
11	13(天然歯大)の面取り③	実習	デモと一緒に13の面取り Step4(隣接面観修正)を理解し実践する。 Step4までチェック完了後はステップ模型を製作する。
12	13(天然歯大)の面取り④	実習	13の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～4のステップ模型を作成する。 面取りにより13の形態的特徴を理解する。
13	13(天然歯大)の面取り⑤	実習	13の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～4のステップ模型を作成する。 面取りにより13の形態的特徴を理解する。
14	11、13(天然歯大)の面取り復習	実習	11、13の面取りの手順の理解を深め、復習し試験に備える。
15	11、13(天然歯大)の面取り実技試験	実習	11、13の面取りを合わせて80分で実践し理解度を確認する。

科目名 (英)	歯科理工学 I Dental Materials and Devices I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科医師として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的 科目概要	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するための基本的知識および製作方法を学ぶことを目的とする。教科書の該当部分は以下の通りである。 第1章「歯科技工と歯科理工学」、第2章「歯科材料の性質(第1項 物質の構造)」、第3章「印象と模型製作」、第4章「原型製作」、第5章「レジン成形」、第7章「金属成形」、第11章「補綴装置と修復物の安定性」						
到達目標	① 歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明できる。 (金属材料・セラミック系材料・レジン系材料の概要、印象材、模型材、原型材料) ② 歯科技工による装置製作の過程(ロストワックス精密鑄造法)を説明できる。 ③ 歯科技工による装置製作の過程(レジン成形法)を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学第1版 全国歯科技工士教育協議会 編集(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】本シラバスに記載してある教科書の該当ページを熟読し、キーワードと思われる語句をチェックしておく。同時に行われる実習を振り返り使用材料や取り扱いの方法を確認すること。【講義】対面講義:板書およびスライド。オンライン講義:動画配信。【小テスト】講義終了時に小テストを行なう。		
参考図書	世界一わかりやすい歯科材料入門(デンタルダイヤモンド社)						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工と歯科理工学(第1章) 歯科材料の分類と特徴(第2章-1) 補綴装置と修復物の安定性(第11章)	講義	歯科理工学の意義と目的(歯科理工学の意味、歯科理工学の目的)、歯科材料の果たす役割、歯科用装置の製作過程、歯科技工の安全性と環境、物質の構造(原子間結合、材料の種類と性質)について理解する。※教科書該当ページ:p.1～p.7、p.190～p.195
2	歯科治療の実際	講義	歯科医療の全体像(教科書には記載のない内容)について理解する。 →歯科治療の全体像、用語の整理
3	印象と模型製作①(第3章)	講義	印象材(印象材の分類、印象材の種類、印象材の一般的性質、印象材と模型材との関係)について理解する。 ※教科書該当ページ:p.28～p.40
4	印象と模型製作②(第3章)	講義	模型材(石膏の種類、石膏の一般的性質)について理解する。 ※教科書該当ページ:p.40.～p.50
5	レジン成形①(第5章)	講義	義歯床用レジン(義歯床用レジン、加熱重合レジン)について理解する。 ※教科書該当ページ:p.3、p.59～p.68
6	レジン成形②(第5章)	講義	義歯床用レジン(常温重合レジン、その他の義歯床用レジン、填入・成形法)について理解する。 ※教科書該当ページ:p.3、p.70～p.74
7	まとめ	講義	第1回～第6回の講義について理解する。問題演習を行い、解説講義を行う。
8	定期試験・解説講義	講義	定期試験を行う。解説により理解不十分なところを補う。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習 I Fixed Prosthodontics and Restoration Basic Practice I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学号・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	上顎第一大臼歯の蠟型採得(ワックスアップ)の手順と基本的な歯科技工技術について習得する。						
科目概要	全部金属冠のワックスアップの手順、上顎第一大臼歯の解剖学的形態を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎第一大臼歯の解剖学的形態を理解し、全部金属冠の製作ができる。 ・全部金属冠のワックスアップの手順を理解し、全部金属冠の製作ができる。 ・全部金属冠のワックスアップの製作上の注意点を理解し、全部金属冠の製作ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品評価」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書を併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 実習プリント(オリジナル) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	咬合器装着 [66T-46(U)]	実習	咬合器(スペイシー)の正しい取扱い方、注意点について習得する。 上顎模型の正しい装着方法について習得する。
2	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[盛り上げ～]	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材について習得する。
3	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[盛り上げ～]	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材の正しい取り扱い方について習得する。
4	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[盛り上げ～]	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 Wax upに必要な使用器具、器材の正しい取り扱い方について習得する。
5	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[主溝と外形]	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
6	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[主溝と外形]	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (主溝と外形)について習得する。 上顎左側第一大臼歯の主溝と外形について習得する。
7	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[マージンチェック～スプルー植立]	実習	マージンチェックの方法、注意点について習得する。 接触点部へのワックスの追加方法、注意点について習得する。
8	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up[スプルー植立～埋没] Wax up復習トレーニング	実習	スプルー植立の方法、注意点について習得する。 スプルー線の種類、植立の原則について習得する。 Wax up (盛り上げの手順)について復習し、習熟度を上げる。
9	上顎第一大臼歯 Cr. [鑄造] Wax up復習トレーニング	実習	鑄型の加熱スケジュール、注意点について理解する。 鑄造(遠心鑄造)の方法、注意点について習得する。 Wax up (盛り上げの手順)について復習し、習熟度を上げる。
10	上顎第一大臼歯 Cr. 研磨[スプルーカット～荒研磨]	実習	研磨の方法、注意点について習得する。 金属研磨の原則について習得する。
11	上顎第一大臼歯 Cr. 研磨[スプルーカット～荒研磨]	実習	研磨の方法、注意点について習得する。 金属研磨の原則について習得する。
12	上顎第一大臼歯 Cr. 研磨[中研磨～仕上げ研磨]	実習	研磨の方法、注意点について習得する。 金属研磨の原則について習得する。
13	全部金属冠製作の振り返り	実習	全部金属冠の製作手順と注意事項について振り返り、レポートにまとめ理解する。
14	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up復習トレーニング	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習熟度を上げる。
15	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up復習トレーニング	実習	上顎第一大臼歯 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について習熟度を上げる。

科目名 (英)	歯科材料加工演習 I Dental Materials Processing Practice I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科医院での臨床経験を有する教員が、材料の取り扱いについて授業する。						
目的	歯科技工士が使用する様々な歯科材料及び機器の取り扱い方法について、実際の作業を通じて習得する。						
科目概要	歯科技工士が扱う材料や機器の取り扱いについて学ぶ。様々な実習体験を通して、歯科技工の基本操作について理解を深める。						
到達目標	・石膏、ワックスに関する基本事項(使用材料、使用機器、操作上の注意点など)を理解し、取り扱うことができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験で行い100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	歯科技工の基礎知識						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	石膏の操作方法及び、取り扱いの注意点について理解する。 石膏注入の手順を理解したうえで、気泡のない石膏棒を製作する。
2	石膏彫刻(ナイフの持ち方)	実習	ナイフの正しい取り扱い方法及び注意点について理解する。
3	石膏彫刻(設計通りに削る1)	実習	正しく寸法を計測する方法及び注意点について理解する。 ナイフや彫刻刀を用いて設計通りに削る方法及び注意点について理解する。
4	石膏彫刻(設計通りに削る2) 合同実習	実習	正しく寸法を計測する方法及び注意点について理解する。 ナイフや彫刻刀を用いて設計通りに削る方法及び注意点について理解する。
5	石膏彫刻(設計通りに削る3) 合同実習	実習	正しく寸法を計測する方法及び注意点について理解する。 ナイフや彫刻刀を用いて設計通りに削る方法及び注意点について理解する。
6	実力確認	実習	石膏彫刻(設計通りに)を時間内で製作する。
7	ワックス操作(流す)	実習	ワックスの操作方法(流す)を理解する。
8	ワックス操作(盛り上げる)	実習	ワックスの操作方法(盛り上げる)を理解する。

科目名 (英)	クラウンブリッジ・デザイン I Crown and Bridge Design I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	クラウン(臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入～咬合器装着	実習	製作する補綴物をふまえた咬合器装着の方法が理解できる。 使用箇所に適した石膏の選択および取り扱い方法が理解できる。
2	石膏注入～咬合器装着	実習	製作する補綴物をふまえた咬合器装着の方法が理解できる。 使用箇所に適した石膏の選択および取り扱い方法が理解できる。
3	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
4	14Cr. Wax up 盛り上げ	実習	14 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について理解できる。
5	14Cr. Wax up 主溝、外形	実習	14 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について理解できる。 主溝と外形製作時のポイントが理解できる。
6	14Cr. Wax up 副溝	実習	14 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について理解できる。 副溝の入れ方のポイントを理解できる。
7	14Cr. Wax up 副溝	実習	14 Cr. Wax up (盛り上げの手順)について理解できる。 副溝の入れ方のポイントを理解できる。
8	14Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 模型のスキャン方法が理解できる。
9	14Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 模型のスキャン方法が理解できる。
10	14Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	クラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
11	14Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いたクラウンのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
12	14Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いたクラウンのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	14Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	14Cr. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたクラウンを適合させるまでの手順が理解できる。
15	14Cr. 完成物(ワックスパターン)の比較	実習	wax upと、CAD/CAMの製作工程の違いについて理解する。 適合の違いについて比較理解する。

科目名 (英)	モデリング&デザイン I Modeling and Design I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村 元
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	キャラクターコンテンツ企画や声優番組企画番組などの制作会社を経営し、自らもクリエイターとして最前線で活躍している講師が、MAYAソフトの基本的な操作から、コンテンツ制作についての授業を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	現代においてゲームから映像作品にいたるまで、様々なコンテンツにおいて必須表現技術となっている3DCGを体系的に学びます。プロも使用するソフトウェア「MAYA」を用い、演習を中心に知識と技術の理解を深めて3DCG作品制作技術を体得します。技術だけでなく、共同制作が基本の3DCG現場における“クリエイターとしての教養&素質”を学友とともに育み伸ばします。						
到達目標	1:MAYAの基本操作の習得 2:モデリング技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能 3:勉強した機能や知識を活用しオリジナル作品として成果物を制作できる						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は(1)成果物:60% (2)受講姿勢[授業内発言・授業協力など]:30% (3)小テスト:10%、とする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ガイダンス	講義	授業構成、学習スケジュール説明、3DCG技術の全体像の説明。 先生を含む、自己紹介。アイスブレイクレクリエーションを予定。
2	【MAYA】基本操作	実習	3DCGの基本知識の座学。 実際にソフトウェア操作を通じてMAYAの基本操作、理解を深める。
3	【MAYA】POLYGON:モデリング1	実習	成果物作成を通じて、 各種機能を使用し、ポリゴンの基本的な作成方法を学ぶ。
4	【MAYA】POLYGON:モデリング2	実習	成果物作成を通じて、 各種機能を使用し、ポリゴンの基本的な作成方法を学ぶ。
5	【MAYA】NURBS:モデリング1	実習	成果物作成を通じて、 各種機能を使用し、NURBSの基本的な作成方法を学ぶ。
6	【MAYA】NURBS:モデリング2	実習	成果物作成を通じて、 各種機能を使用し、NURBSの基本的な作成方法を学ぶ。
7	【MAYA】RENDERING:シェーダーの作成1	実習	シェーダー&テクスチャーの概念の勉強。 各種設定方法、レンダリングによる結果を通じて基本的な作成方法を学ぶ。
8	【MAYA】RENDERING:シェーダーの作成2	実習	シェーダー&テクスチャーの概念の勉強。 各種設定方法、レンダリングによる結果を通じて基本的な作成方法を学ぶ。
9	【MAYA】ANIMATION:パスアニメーション	実習	オブジェクトを動かし、MAYAにおけるアニメーションを勉強する。 タイムラインの概念、制御など基本的な作成方法を学ぶ。
10	【MAYA】ANIMATION:階層アニメーション	実習	階層アニメーションでオブジェクト同士の影響を勉強する。 オブジェクトのタイムライン制御、レンダリングなど基本的な作成方法を学ぶ。
11	【MAYA】ANIMATION:デフォーマーの活用	実習	モデリングにも役に立つ機能デフォーマーに関する勉強。 各種機能と活用方法を学ぶ。
12	【MAYA】ANIMATION:制約の活用	実習	アニメーションさせる数値、法則を制約によって制御する方法の勉強。 各種機能と活用方法を学ぶ。

13	【MAYA】実践:SDキャラクター制作1	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して 成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。
14	【MAYA】実践:SDキャラクター制作2	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して 成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。
15	【MAYA】実践:SDキャラクター制作3	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して 成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。

科目名 (英)	モデリング&デザインⅡ Modeling and Design Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村 元
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	クリエイターとして、またコンテンツ制作の企画運営の会社の社長として、エンターテインメント業界の最前線で活躍している講師が、CGデザインの技法や現場力について実践的な授業を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	現代においてゲームから映像作品にいたるまで、様々なコンテンツにおいて必須表現技術となっている3DCGを体系的に学びます。プロも使用するソフトウェア「MAYA」を用い、演習を中心に知識と技術の理解を深めて3DCG作品制作技術を体得します。技術だけでなく、共同制作が基本の3DCG現場における“クリエイターとしての教養&素質”を学友とともに育み伸ばします。						
到達目標	1: MAYAの基本操作の習得 2: モデリング技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能 3: 勉強した機能や知識を活用しオリジナル作品として成果物を制作できる						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は(1)成果物:60% (2)受講姿勢[授業内発言・授業協力など]:30% (3)小テスト:10%、とする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	【MAYA】実践:SDキャラクター制作4	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。
2	【MAYA】実践:SDキャラクター制作5	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。
3	【MAYA】実践:SDキャラクター制作6	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して成果物であるSDキャラクターを1から作成し、技術の体得する。
4	【MAYA】キャラクターセットアップ1	実習	制作したSDキャラクターをアニメーションさせるセットアップ方法の勉強。キャラクターセットアップに必要な各種機能の活用方法を学ぶ。
5	【MAYA】キャラクターセットアップ1	実習	制作したSDキャラクターをアニメーションさせるセットアップ方法の勉強。キャラクターセットアップに必要な各種機能の活用方法を学ぶ。
6	【MAYA】画像合成1	実習	MAYAから他の映像編集ソフトに映像を受け渡すの勉強。合成映像用のアニメーション制作、レンダリングの活用方法を学ぶ。
7	【AfterEffect】画像合成1	実習	MAYAで制作された素材を映像と合成させるの勉強。各ソフトウェアの連携させた映像制作方法を学ぶ。
8	ガイダンス:成果物課題Aについて	講義	テーマを決め「静止画でのオリジナル3DCG作品」を成果物課題Aとして提出してもらう。具体的なオリジナル作成工程を学び、作品制作を行う。課題として授業とは別に生徒は成果物課題Aを向けて取り組んでもらう。
9	【MAYA】SCRIPT:MELの活用	実習	スクリプトエディタを使用し、MELでの活用方法を学ぶ。
10	【MAYA】DYNAMICS:パーティクルの活用	実習	パーティクル機能を使用したエフェクト作成の勉強。パーティクルの制御、活用方法を学ぶ。
11	【MAYA】DYNAMICS:シミュレーションの活用	実習	物理シミュレーションの勉強。主な物理シミュレーションを用いてオブジェクトへの活用方法を学ぶ。
12	制作時間:成果物課題A	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Aを本格的に制作に入ってもらい、学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。

13	制作時間: 成果物課題A	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Aを本格的に制作に入ってもらおう。 学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。
14	講評会: 成果物課題A	講義	完成した成果物課題Aを一人ずつプレゼンテーション発表をしてもらい 学友とともに成長成果を共有する。結果を顧みて足りていない技術補完を目指す。
15	講評会: 成果物課題A ガイダンス	講義	講評会のつづき、総括を行う。 夏休み明けの授業のスケジュールや学習内容を告知し、備えてもらう。

科目名 (英)	イラスト・デザイン I Illustration and Design I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	稲益彩香
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	「デジタルハリウッド大学」にて、DTPを中心としたデザインを学び、2010年「バンダイナムコエンターテインメント」に就職、太鼓の達人やアイドルマスターなどのアシスタントプロデューサーを努めながら、ゲーム以外の新規事業にも取り組む。2021年姉妹で起業しデザイン会社を営む。						
目的	Illustrator/PhotoshopなどのCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。						
科目概要	Photoshop/Illustratorのツールの基本操作を学びながら、実際の現場でのデザイン業務体験を通じて必要になる実践的なデザインの基礎概要、及び、「考える」×「実際に表現する」から生まれる、デザインの基礎概念を体感・実践出来るよう学んで頂く						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基礎知識や、実践での活用、デザイン業務を仕事にする事について知識を得る ・2つのツールの基本的な機能を実践的に体験する(Photoshop＝写真加工/イラストレーション、Illustrator＝DTP) ・デザインを実践で使う知識を得る (写真加工、バナー、チラシ) 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「課題提出」を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	世界一わかりやすいIllustrator 操作とデザインの教科書 CG/CS6 対応版	事前事後 学習と その内容	【事前学習】なし				
参考図書	世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書 CG/CS6		【事後学習】毎回課題を出すため、自分自身が取り組める所まで、次回授業までに取り組み、次回授業前に提出すること ※提出頂いたものは、赤入れをして毎回お戻し致します。				
特記事項							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	イラスト/デザインについて ～CGが使われている現場のお話	実習	「CG(コンピューターを用いた画像全般を呼称)」がどのようなシーンで使われているのか？ CGツールの一つ「Photoshop/Illustrator(Adobe)」を中心に解説する
2	イラスト/デザインについて ～CGが使われている現場のお話	実習	CGグラフィックが出来るとどのような役に立つのか？事例や職業解説、イラストレーションと デザインの種類などについて触れながら「自分が好きなデザイン」について知る
3	Photoshop基本① ～Photoshopの基本概念	実習	「Photoshop」を写真補正を中心に、基本的なツールの使い方を学び、 写真の色味や補正などを行って頂く
4	Photoshop基本① ～Photoshopの基本概念	実習	「Photoshop」を写真補正を中心に、基本的なツールの使い方を学び、 写真の色味や補正などを行って頂く
5	Photoshop基本② ～イラストの基礎知識	実習	「Photoshop」イラストレーションの機能を中心に、 基本的なツールの使い方や、レイヤーの概念等を把握頂く
6	Photoshop基本② ～イラストの基礎知識	実習	「Photoshop」イラストレーションの機能を中心に、 基本的なツールの使い方や、レイヤーの概念等を把握頂く
7	Photoshop演習① ～WEBバナーの作り方	実習	「Photoshop」で使った加工画像を用いて、 バナーを作ることで、レイヤーや文字入れ等を行う
8	Photoshop演習① ～WEBバナーの作り方	実習	「Photoshop」で使った加工画像を用いて、 バナーを作ることで、レイヤーや文字入れ等を行う
9	Photoshop演習② ～サムネイルの作り方	実習	「Photoshop」でサムネイル画像を作る事で、 画像加工、レイヤー概念、切り抜き、補正などを実践頂く
10	Photoshop演習② ～サムネイルの作り方	実習	「Photoshop」でサムネイル画像を作る事で、 画像加工、レイヤー概念、切り抜き、補正などを実践頂く
11	Illustrator基礎① ～ベクターデータの世界	実習	「Illustrator」の記号・文字を中心に、思う形やデータがベクターデータで 作れるようになる手法を実践的に学んでいただく
12	Illustrator基礎① ～ベクターデータの世界	実習	「Illustrator」の記号・文字を中心に、思う形やデータがベクターデータで 作れるようになる手法を実践的に学んでいただく
13	Illustrator基礎② ～文字組み	実習	「Illustrator」で印刷データを作る事を想定しながら、文字組みの基礎知識や、 整列・グループピング・クリッピングマスクなど印刷時に使う必要ツールを触って頂く
14	Illustrator基礎② ～文字組み	実習	「Illustrator」で印刷データを作る事を想定しながら、文字組みの基礎知識や、 整列・グループピング・クリッピングマスクなど印刷時に使う必要ツールを触って頂く
15	Illustrator演習① ～印刷物作成	実習	「Illustrator」で、実際にPhotoshopで使った加工写真を用いて、 写真を配置・文字入れを行う

科目名 (英)	イラスト・デザインⅡ Illustration and Design Ⅱ	年次	1	必修科目	必修科目	実務経験	有	科目 責任者	稲益彩香
		授業形態	実習		時間数	30	授業回数	15	開講区分
学科・コース	歯科技工士科午後部		単位	1					
講師紹介	「デジタルハリウッド大学」にて、DTPを中心としたデザインを学び、2010年「バンダイナムコエンターテインメント」に就職、太鼓の達人やアイドルマスターなどのアシスタントプロデューサーを努めながら、ゲーム以外の新規事業にも取り組む。2021年姉妹で起業しデザイン会社を営む。								
目的	Illustrator/PhotoshopなどのCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。								
科目概要	Photoshop/Illustratorのツールの基本操作を学びながら、実際の現場でのデザイン業務体験を通じて必要になる実践的なデザインの基礎概要、及び、「考える」×「実際に表現する」から生まれる、デザインの基礎概念を体感・実践出来るよう学んで頂く								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールを用いて自分自身が「表現したいもの」を作れることに近づく ・デザインを仕事で実践的に使う体験をしていただく(WEBバナーや、チラシ等を作るのに必要な知識が身につく) ・デザインに対する知識や考え方の概要を得ていただく 								
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「課題提出」を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>								
教科書				事前事後 学習と その内容	【事前学習】なし				
参考図書					【事後学習】毎回課題を出すため、自分自身が取り組める所まで、次回授業までに取り組み、次回授業前に提出すること ※提出頂いたものは、赤入れをして毎回お戻し致します。				
特記事項									
授 業 計 画									
回数	授業テーマ		授業形態	授業内容					
1	Illustrator演習① ～印刷物作成		実習	「Illustrator」で、実際にPhotoshopで使った加工写真を用いて、写真を配置・文字入れを行う					
2	Illustrator演習② ～チラシ作成		実習	「Illustrator」で、実際の素材を用いて、チラシを作る事で写真配置・文字入れ・印刷用データの作成などを実践頂く					
3	Illustrator演習② ～チラシ作成		実習	「Illustrator」で、実際の素材を用いて、チラシを作る事で写真配置・文字入れ・印刷用データの作成などを実践頂く					
4	コンセプトデザイン① ～デザイン制作の下準備		実習	今まで学んだ「技術」を用いて、自分が表現するものを正しく表現するため、「コンセプトデザイン」を学び、表現するものを明確にする					
5	コンセプトデザイン① ～デザイン制作の下準備		実習	今まで学んだ「技術」を用いて、自分が表現するものを正しく表現するため、「コンセプトデザイン」を学び、表現するものを明確にする					
6	コンセプトデザイン② ～制作計画の作成		実習	「コンセプトデザイン」の基本に基づき、自分のオリジナルブランドについて、コンセプトを考えて頂き、それを表現する手段について検討頂く					
7	コンセプトデザイン② ～制作計画の作成		実習	「コンセプトデザイン」の基本に基づき、自分のオリジナルブランドについて、コンセプトを考えて頂き、それを表現する手段について検討頂く					
8	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
9	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
10	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
11	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
12	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
13	実制作 ～自分のオリジナルブランドを作る		実習	「コンセプトデザイン」と今までの「技術」を用いて、自分が作りたいオリジナルブランドの制作物を作成頂く(WEB用バナー/チラシ)					
14	～総評		実習	自分自身がデザインしたものについて、プレゼンを行い、「どういう意図で、何を作ったのか？」を明確に説明できるようにする。					
15	～総評		実習	自分自身がデザインしたものについて、プレゼンを行い、「どういう意図で、何を作ったのか？」を明確に説明できるようにする。					

科目名 (英)	臨床歯科概論 Clinical Dentistry Overview	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	演習		有	開講区分	
		時間数	151	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	2	前期			
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科医院での臨床経験を有し、歯科技工士会役員も務める教員が、ゲスト講師を招き歯科医療界の動向について授業する。						
目的	臨床現場で必要とされる知識・技術およびチーム歯科医療について理解する。						
科目概要	歯科医療の臨床現場について多角的に学ぶ。感染症および感染症予防についても理解し実践できるようになることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療現場で必要となる感染予防をはじめ、診療に関わる基本的な事項を理解する。 ・小規模歯科技工所におけるデジタル技工に対する取り組みを理解する。 ・チーム歯科医療における歯科技工士の役割を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、不合格とする。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	【事前学習】見学では、事前に見学先のHPを確認すると、有意義な見学をすることができる。			
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	企業見学	演習	歯科医療の概要と、感染症予防について予防策の実践を通じて理解を深める。
2	企業見学	演習	歯科医療業界で働くひとの姿を通じて、医療従事者の「身だしなみ」「言葉遣い」「態度」「話し方」などについて学ぶ。
3	歯科技工士としてのキャリア 短期的な視点と長期的な視点	講義	臨床で働く歯科技工士をゲスト講師に迎え、どのようなキャリアを形成してきたか事例を通じて、将来の方向性について考察する。
4	歯科医療について より深く知るための技術・技法	講義	レポート作成の基本を実践を通じて学ぶ。特に、参考文献の集め方について学ぶ。
5	歯科技工士としてのキャリア 技工技術に自分のキャリアを重ねる	講義	臨床で働く歯科技工士をゲスト講師に迎え、どのようなキャリアを形成してきたか事例を通じて、将来の方向性について考察する。
6	歯科技工士としてのキャリア 技工技術に自分のキャリアを重ねる	講義	臨床で働く歯科技工士をゲスト講師に迎え、どのようなキャリアを形成してきたか事例を通じて、将来の方向性について考察する。
7	歯科技工士としてのキャリア 歯科技工所経営者からの助言	講義	臨床で働く歯科技工士をゲスト講師に迎え、どのようなキャリアを形成してきたか事例を通じて、将来の方向性について考察する。
8	歯科技工士としてのキャリア 歯科技工所経営者からの助言	講義	臨床で働く歯科技工士をゲスト講師に迎え、どのようなキャリアを形成してきたか事例を通じて、将来の方向性について考察する。
9	企業見学	演習	歯科技工製作の現場を見学し、働き方改革を進めるうえでの工夫を、事例を通じて学ぶ。
10	企業見学	演習	歯科医療業界で働くひとの姿を通じて、医療従事者の「身だしなみ」「言葉遣い」「態度」「話し方」などについて学ぶ。
11	歯科医師からのメッセージ 歯列矯正治療の進化と歯科技工	演習	歯科医師をゲスト講師としてお迎えし、矯正歯科治療の進化と今後の歯科技工士に期待されることを学ぶ。
12	企業見学	演習	歯科技工製作の現場を見学し、働き方改革を進めるうえでの工夫を、事例を通じて学ぶ。
13	企業見学	演習	歯科医療業界で働くひとの姿を通じて、医療従事者の「身だしなみ」「言葉遣い」「態度」「話し方」などについて学ぶ。
14	診察室における歯科技工士の役割と コミュニケーション	講義	コ・デンタルスタッフの一人としての歯科技工士の役割と、チーム歯科医療を行ううえで不可欠な他職種とのコミュニケーションについて理解する。
15	まとめとプレゼンテーション	演習	いままでの振り返りをおこない、今考える自分のキャリアについて発表する

科目名 (英)	歯型彫刻・デッサン II Tooth Carving and Drawing II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1	後期			
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、歯の解剖学の知識歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
科目概要	上顎右側第一大臼歯の面取り、荒彫りを理解し形態的特徴を立体で表現する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・16の面取りの手順を理解する。 ・16の荒彫り(主溝と外形)の手順がわかり形態的特徴を立体で表現できる。 ・自分の彫刻と見本模型とよく比較することで観察力を養う。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むと良い。 動画を視聴し動作のイメージをつかむと良い。 【事後学習】 毎日30分程度、自主練習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	16の形態的特徴の復習 16の面取り①	実習	デモと一緒に16の面取りを実践する。 面取りStep1(咬合面観) Step2(頬舌面観)の面取りまで進める。 Step2でチェックを受ける。完了後はステップ模型を作成する。
2	16の形態的特徴の復習 16の面取り②	実習	デモと一緒に16の面取りを実践する。 面取りStep3(隣接面観)まで進める。 Step3でチェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
3	16の形態的特徴の復習 16の面取り③	実習	デモと一緒に16の面取りを実践する。 面取りStep4(咬頭差) Step4修正、Step5d主溝の設定まで進める。 Step5でチェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
4	16の形態的特徴の復習 16の面取り④	実習	16の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～5まで実践し、 ステップ模型を作成する。 面取りにより16の形態的特徴を理解する。
5	16の面取りStep3までの実技試験	実習	16の面取りStep3まで指定時間内で実践する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよいとする。
6	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り①	実習	デモと一緒に16の荒彫りを実践する。 面取りStep1(咬頭の位置) Step2(遠心上部鼓形空隙) Step3(隅角の修正)まで進める。
7	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り②	実習	デモと一緒に16の荒彫りを実践する。 面取りStep1(咬頭の位置) Step2(遠心上部鼓形空隙) Step3(隅角の修正)まで進める。 チェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
8	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り③	実習	デモと一緒に16の荒彫りを実践する。 面取りStep4(咬頭) Step5(主溝・三角溝)まで進める。 チェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
9	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り④	実習	デモと一緒に16の荒彫りを実践する。 外形の荒彫り(頬側面)を実践しチェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
10	16の面取りStep5までの実技試験	実習	16の面取りStep5まで指定時間内で実践する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよいとする。
11	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り⑥	実習	16の荒彫り(主溝・外形)を実践する。 見本模型をよく観察し外形の荒彫りを進める。 チェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
12	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り⑦	実習	第一大臼歯(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解して、ステップ毎に チェックを受けながら実践する。
13	16の形態的特徴の復習 16の荒彫り⑧	実習	第一大臼歯(天然歯大)の副溝と隆線の仕上げ彫りの手順を理解して、ステップ毎に チェックを受けながら実践する。
14	16の面取り～荒彫り復習	実習	第一大臼歯(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解して、ステップ毎に チェックを受けながら実践する。
15	16の荒彫り実技試験(80分)	実習	16の荒彫り(主溝と外形)を80分で一人で実践する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよいとする。

科目名 (英)	顎口腔機能学 Stomatognathic Function	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、歯の解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯科技工物の製作に必要な、下顎運動に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯科技工の業務に必要な下顎運動に関する基本的な知識を、講義やグループワークを交えて理解することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な下顎位の説明をすることができる。 ・ポッセルの図形について、各点の名称及び名称に対応する運動路について説明することができる。 ・前方運動、側方運動時の下顎の動きについて、それらの特徴を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔学機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	顎口腔系について	講義	下顎運動の全体像を理解する上で必要となる、歯を取り巻いている組織や器官(顎口腔系と呼ぶ)について理解する。また、下顎運動の分析に必要な基準面を理解する。
2	下顎位	講義	歯科技工操作を行う上で重要な知識となる、下顎位について理解する。
3	下顎の限界運動	講義	下顎の限界運動について、ポッセルの図形を用いて理解する。
4	ポッセルの図形	講義	ポッセルの図形について、各基準面から下顎運動を観察し理解する。
5	前方運動	講義	下顎の基本運動の一つである前方運動について理解する。
6	側方運動	講義	下顎の基本運動の一つである側方運動について理解する。
7	機能運動	講義	下顎の機能運動(咀嚼・嚥下・発音)について理解する。
8	まとめ	講義	顎口腔系について、下顎位、下顎の限界運動、ポッセルの図形、前方運動、側方運動、機能運動について理解を深める。

科目名 (英)	歯科理工学Ⅱ Dental Materials and Devices II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	経歴：歯科医師 / 昭和大学歯学部 歯科保存学講座 歯科理工学部門 講師 / 博士(歯学) 受講者へのメッセージ：生体材料に関する研究を行う傍ら、歯科理工学の歯学部学生への講義と実習を担当しています。機能する口腔内装置を製作するには材料の知識や取扱い方を身に付けることがとても重要です。今まで理系科目を学んでいない学生や苦手な学生にも生活に密着した						
目的 科目概要	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するための基本的知識および製作方法を学ぶことを目的とする。教科書の該当部分は以下の通りである。 第2章「歯科材料の性質」、第4章「原型製作」、第7章「金属成形」、第11章「補綴装置と修復物の安定性」、第6章「セラミック成形(第1項歯科用セラミックス)」、第8章「その他の歯科材料」、第10章「新しい加工技術」						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明できる。 ・歯科技工による装置製作の過程(ロストワックス精密鑄造法)を説明できる。 ・新しい歯科材料および加工法(デジタルデンティストリー)を理解できる。 ・歯科材料の物性評価法を説明できる。(物質の構造、機械的性質、物理的性質、化学的性質、生物学的性質) 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工学教科書 歯科理工学第1版 全国歯科技工士教育協議会 編集(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】本シラバスに記載してある教科書の該当ページを熟読し、キーワードとなると思われる語句をチェックしておく。同時に行われる実習を振り返り使用材料や取り扱いの方法を確認すること。【講義】対面講義：板書およびスライド。オンライン講義：動画配信。【小テスト】講義終了時に小テストを行なう。		
参考図書	世界一わかりやすい歯科材料入門(デンタルダイヤモンド社)						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (2/6)	金属成形⑤(第7章) 原型製作(第4章)	講義 (動画配 信)	鑄造(鑄造理論、埋没材)、原形材料(歯科用ワックスの種類と用途、歯科用ワックスの組成、歯科用ワックスの性質、ワックス以外の原形材料)※教科書該当ページ:p.114～p.122、p.51～p.58
2	金属成形⑥(第7章)	講義 (対面)	鑄造(埋没操作、鑄型の加熱、鑄造操作、鑄造欠陥、適合不良) ※教科書該当ページ:p.122～p.144
3	セラミック成形①(第6章)	講義 (動画配 信)	歯冠用セラミックス(概説、種類、性質と強化) ※教科書該当ページ:p.84～p.87
4	セラミック成形②(第6章)	講義 (動画配 信)	長石系陶材(塑性、築盛、焼成)、金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、金属焼付用陶材と陶材焼付用合金) ※教科書該当ページ:p.87～p.100
5	セラミック成形③(第6章)	講義 (動画配 信)	加熱加圧型セラミックス(成分、成形法)、ジルコニア(種類、成形法)、その他のセラミック材料(焼成で製作するセラミックス、ロストワックス法で製作するセラミックス、機械加工で製作するセラミックス)※教科書該当ページ:p.100～p.105
6	新しい加工技術(第10章)	講義 (動画配 信)	CAD(Computer Aided Design)、CAM(Computer Aided Manufacturing)(切削加工法、積層造形法)※教科書該当ページ:p.181～p.189
7	まとめ	講義 (動画配 信)	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。
8 (2/27)	確認試験	講義 (対面)	第1回～第6回の講義範囲の確認試験を行う。 ※知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)、および多肢選択問題を出題する。

科目名 (英)	有床義歯技工学 I Dental Technology for Plate Denture I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし部分床義歯について必要な知識を深める授業を行う。						
目的	人工臓器である部分床義歯(部分入れ歯)の製作をする上で、必要な基礎知識を理解する。						
科目概要	部分床義歯製作の工程(クラスプ製作～埋没まで)について、実際の工程に対応させながら、基礎知識をよりの確に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯製作の概略を説明することができる。 ・模型を咬合器に装着する際の、咬合器に対する模型の位置について説明することができる。 ・サベイング、クラスプ製作、人工歯排列、歯肉形成及びレジン流し込みまでの工程を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	初めての義歯製作・歯が抜けると ・義歯の構造	講義	口蓋板の製作を振り返りながら、義歯製作の手順を理解する。 歯が抜けるとどうなるのかを学び、そこに入れる義歯の構造を理解する。
2	サベイングの考え方・咬合器①	講義	模型とサベイヤーを用いて、アンダーカット操作及びサベイング操作に必要な理論を理解する。また、咬合器用いて、咬合器の働きや動きを理解する。
3	クラスプの概要	講義	クラスプの所要条件及びクラスプ各部の名称と働きについて理解する。
4	クラスプの特色	講義	クラスプに関する重要語句、直接・間接・補助維持装置について理解する。
5	人工歯の概要	講義	患者に適した人工歯を選択する上で必要となる、人工歯に用いられる様々な材料及び、人工歯の臼歯部形態と天然歯の形態との相違点を理解する。
6	人工歯排列と歯肉形成	講義	臼歯部における様々な咬合彎曲について確認し、どのように人工歯排列をすればよいかを理解する。患者の口腔内状況に応じた歯肉形成のために必要な、臼歯部における基本的な歯肉形成法を理解する。
7	シリコンコア法による埋没	講義	シリコンコア法を用いた、ワックスからレジンに置き換える工程を理解する。
8	定期試験、解説講義	講義	初めての義歯製作、歯が抜けると、義歯の構造、サベイングの考え方・咬合器、クラスプの概要、クラスプの特色、人工歯の概要、人工歯排列と歯肉形成、シリコンコア法による埋没について理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学Ⅱ Dental Technology for Plate Denture II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし部分床義歯について必要な知識を深める授業を行う。						
目的	人工臓器である部分床義歯(部分入れ歯)の製作する上で、必要な基礎知識を理解する。						
科目概要	部分床義歯製作の工程(埋没～完成)および連結子について、実際の工程に対応させながら、基礎知識をよりの確に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスプについて名称及びその特徴を説明することができる。 各大連結子について、その名称及びその特徴を説明することができる。 フラスコ埋没、流蠟、填入、重合、削合、研磨、までの工程を説明することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイングⅠ	講義	サベイングの方法と理論について理解する。
2	サベイングⅡ	講義	部分床義歯のフラスコ埋没の方法、利点・欠点について理解する。 流蠟操作、各填入法について理解する。
3	アタッチメント・テレスコープ義歯	講義	アタッチメントについて理解する。 テレスコープ義歯について理解する。
4	部分床の模型製作・個人トレー	講義	部分床義歯の模型・個人トレー製作について理解する。
5	咬合床・咬合採得	講義	部分床義歯の咬合床製作と咬合採得について理解する。
6	人工歯排列・咬合調整	講義	部分床義歯の人工歯排列・咬合調整を理解する。
7	歯肉形成	講義	部分床義歯の歯肉形成について理解する。
8	義歯の埋没・流蠟	講義	部分床義歯の加熱重合レジン使用の埋没法・流蠟を理解する。。
9	レジン填入・重合	講義	部分床義歯の加熱重合レジン使用の填入、重合について理解する。
10	咬合調整・研磨	講義	部分床義歯の削合、研磨仕上げについて理解する。
11	リペアー	講義	義歯の修理について理解する。
12	リベース・リライン	講義	リベース・リラインについて理解する。
13	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
14	即時義歯・顎顔面補綴	講義	即時義歯の製作法・顎顔面補綴について理解する。
15	定期試験、解説講義	講義	部分床義歯の製作過程を振り返りポイントを復習し理解する。

科目名 (英)	有床義歯基礎実習 I Plate Denture Basic Practice I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、部分床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	パラタルバーや鑄造鉤の製作を通して、維持装置の基本的な知識や技術を習得する。						
科目概要	維持装置の製作について基本的な知識や技術の理解を深めるために、パラタルバーや鑄造鉤の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大連結子の役割、種類、製作方法を理解し、実習をすすめることができる。 ・鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 ・金銀パラジウム合金の鑄造方法、注意点、酸処理の目的、方法を理解する。*実習はGPメタルを使用 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイング・設計① 【上顎:66T-31U・下顎:66T-22L】	実習	上顎模型を使用してサベイヤーの使用法、使用上の注意点を理解し、操作を習得する。 下顎模型(66T-22L)の咬合器装着の準備をする。 ・サベイング用模型(66T-31Uサベイング用)・設計用模型(66T-31UPD製作用)
2	サベイング～設計② ブロックアウト	実習	ブロックアウトの基本操作、注意点を理解し、作業法を習得する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
3	複印象前準備～複印象	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業法を習得する。 複印象前準備～複印象までの方法、注意点を理解し、作業法を習得する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
4	耐火模型製作	実習	気泡混入に注意しながら耐火模型材を注入できる操作を習得する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。
5	ワックスパス～設計転記	実習	ワックスパスの注意点を理解し、作業法を習得する。 設計転記の注意点を理解し、確実に設計を行う。
6	鑄造鉤・ワックスアップ①	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業法を習得する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
7	鑄造鉤・ワックスアップ② 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業法を習得する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
8	鑄造鉤・ワックスアップ③ 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業法を習得する。 鑄造鉤埋没の前準備(トリミング)、注意点を理解し、作業法を習得する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
9	鑄造鉤・前準備～埋没 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の埋没方法、注意点を理解し、作業法を習得する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
10	鑄造鉤・鑄造 線鉤屈曲	実習	鑄造方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
11	鑄造鉤・形態修正 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の形態修正・研磨方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
12	鑄造鉤・熱処理① 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
13	鑄造鉤・熱処理② 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
14	鑄造鉤・研磨① 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業法を習得する。
15	鑄造鉤・研磨② 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業法を習得する。 鑄造鉤の適合を確認し、調整する。

科目名 (英) 学科・コース	有床義歯基礎実習Ⅱ Plate Denture Basic Practice Ⅱ 歯科技工士科午後部	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
		単位	1			後期	
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし部分床義歯について必要な知識を深める授業を行う。						
目的	パラタルバーや鑄造鉤の製作を通して、維持装置の基本的な知識や技術を習得する。						
科目概要	維持装置の製作について基本的な知識や技術の理解を深めるために、パラタルバーや鑄造鉤の製作をする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大連結子の役割、種類、製作方法を理解し、実習をすすめることができる。 ・鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 ・金銀パラジウム合金の鑄造方法、注意点、酸処理の目的、方法を理解する。* 実習はGPメタルを使用 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	人工歯排列	実習	欠損部に人工歯を排列する操作と咬合調整を習得する。
2	歯肉形成	実習	人工歯排列を完成させ、歯肉形成を習得する。
3	埋没作業	実習	歯肉形成完成後にコアの採得、流ろう操作を習得する。
4	流し込み①	実習	コアに流し込みレジン注入口を作り、コアを固定する操作を習得する。
5	流し込み②	実習	コアにレジンを流し込み重合する操作を習得する。
6	咬合調整・形態修正	実習	模型を咬合器に戻し、人工歯の咬合調整と歯肉部分の形態修正を習得する。
7	咬合調整・形態修正	実習	模型を咬合器に戻し、人工歯の咬合調整と歯肉部分の形態修正を習得する。
8	歯肉部分形態修正	実習	歯肉部分の形態修正を行い形態を整えた後、床部分の研磨の注意事項を習得する。
9	歯肉部分形態修正	実習	歯肉部分の形態修正を行い形態を整えた後、床部分の研磨の注意事項を習得する。
10	研磨作業①	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を習得する。
11	研磨作業②	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を習得する。
12	研磨作業③	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を習得する。
13	研磨作業④	実習	レーズを使用し、研磨材の選択を理解して研磨作業を習得する。
14	部分床義歯研磨完成	実習	研磨を終了し、完成させることで部分床義歯の製作方法を習得する。
15	部分床義歯研磨完成	実習	研磨を終了し、完成させることで部分床義歯の製作方法を習得する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学 I Fixed Prosthodontics and Restoration I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	治療により削られた又は失われた歯に合わせて様々な補綴装置を製作するために、必要な理論と手技を理解する。						
科目概要	歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類、具備要件について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠修復技工学の概要を理解する。 ・クラウンの概要と種類を理解する。 ・クラウンおよびブリッジの具備条件を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯冠修復技工学の概要 クラウンの概要と種類	講義	歯冠修復技工学の意義・目的、臨床的価値について理解する。 クラウンの概要と種類について理解する。
2	Cr&Brの具備要件-1	講義	歯および歯列との関係について理解する。
3	Cr&Brの具備要件-2	講義	歯周組織との関係について理解する。
4	Cr&Brの具備要件-3	講義	清掃性との関係、材料の特性について理解する。
5	Cr&Brの具備要件-4	講義	支台歯のテーパーと保持力について理解する。
6	Cr&Brの具備要件-5	講義	ガルバニー電流、変色の原因について理解する。
7	Cr&Brの具備要件-6	講義	審美的要件について理解する。
8	まとめ	講義	歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類、Cr&Brの具備要件について理解度を深める。

科目名 (英)	歯冠修復技工学Ⅱ Fixed Prosthodontics and Restoration II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	治療により削られた又は失われた歯に合わせて、様々な補綴装置や作業模型を製作するために、必要な理論と手技を理解する。						
科目概要	全部金属冠、部分被覆冠、作業用模型の製作法、辺縁形態の理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部金属冠の特徴と製作法、製作上の注意点を理解する。 ・部分被覆冠の特徴、ブラックの高洞分類を理解する。 ・作業用模型の種類と特徴、咬合採得を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部金属冠-1	講義	全部金属冠の特徴、適応用途、製作法を理解する。
2	全部金属冠-2	講義	全部金属冠の特徴、適応用途、製作法について理解する。
3	部分被覆冠-1	講義	インレー、アンレーの特徴、ブラックの高洞分類について理解する。
4	部分被覆冠-2	講義	高洞の構成、部分被覆冠の特徴について理解する。
5	作業用模型	講義	作業用模型の種類と特徴について理解する。
6	辺縁形態	講義	辺縁形態の種類と特徴について理解する。
7	咬合採得	講義	咬合採得、咬合記録材料を理解する。
8	まとめ	講義	全部金属冠、部分被覆冠、作業用模型、辺縁形態、咬合採得について理解を深める。

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅱ Fixed Prosthodontics and Restoration Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	全部金属冠のスプルーイング～研磨、インレーのワックスアップを習得する。						
科目概要	圧接法・盛り上げ法によるインレーのワックスアップの手順、チャネルトレイ法による作業用模型の製作法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部金属冠のスプルーイング～研磨の方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 ・インレーのワックスアップの方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 ・チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点を理解し、実習ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品評価」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯型可撤式模型の製作[In.T 模型]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点について習得する。 全部金属冠の隣接面接触点の調整方法、注意点について習得する。
2	歯型可撤式模型の完成[In.T 模型]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点について習得する。 金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について習得する。
3	上顎第一大臼歯 In.T 模型 Wax up[圧接法～主溝と外形]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点について習得する。 圧接法によるワックスアップの方法、注意点について習得する。
4	上顎第一大臼歯 In.T 模型 Wax up[～完成]	実習	チャネルトレイ法による作業用模型の製作方法、注意点について習得する。 インレーのワックスアップの方法、注意点について習得する。
5	上顎第二大臼歯 In.T 模型 Wax up[盛り上げ～]	実習	上顎第二大臼歯 In. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 盛り上げ法によるワックスアップの方法、注意点について習得する。
6	上顎第二大臼歯 In.T 模型 Wax up[主溝と外形]	実習	上顎第二大臼歯 In. Wax up (盛り上げの手順)について習得する。 上顎右側第二大臼歯の主溝と外形について習得する。
7	上顎第二大臼歯 In.T 模型 Wax up[～副溝]	実習	上顎第二大臼歯 In. Wax up (副溝)について習得する。 機械練和(真空練和)による石膏注入の基本操作について習得する。
8	上顎第二大臼歯 In.T 模型 Wax up[～完成]	実習	上顎第二大臼歯 In. Wax up (副溝)について習得する。 機械練和(真空練和)による石膏注入の基本操作について習得する。
9	上顎第二大臼歯 In. [スプルー～埋没]	実習	インレーのスプルー植立の方法、注意点について習得する。
10	上顎第二大臼歯 In. [埋没 完了]	実習	インレーの埋没方法、埋没の注意点について習得する。
11	鑄造操作チェック[17 In.]	実習	鑄造の方法、注意点について習得する。
12	鑄造操作チェック[17 In.]	実習	鑄造の方法、注意点について習得する。
13	上顎第二大臼歯 In. [適合チェック～]	実習	金属研磨(適合チェック)の方法、注意点について習得する。
14	上顎第二大臼歯 In. [粗研磨～]	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について習得する。
15	下顎咬合器装着 完了	実習	咬合器の正しい取り扱い方法、注意点について習得する。

科目名 (英)	クラウンブリッジ・デザイン II Crown and Bridge Design II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	クラウン(臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	複数支台歯がある症例の石膏注入のポイントについて理解できる。
2	模型製作	実習	複数支台歯がある症例の模型製作方法について理解できる。 分割模型製作時の注意点について理解できる。
3	咬合器装着、トリミング	実習	正しい位置関係で咬合器に装着する方法について理解できる。 製作方法(アナログまたはデジタル)に合わせたトリミング方法が理解できる。
4	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
5	wax up 盛り上げ		臼歯部の複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
6	wax up 盛り上げ		臼歯部の複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
7	wax up 主溝、外形		臼歯部複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
8	wax up 主溝、外形		臼歯部複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
9	wax up 副溝～原型完成		臼歯部複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した副溝の位置、バランスについて理解できる。
10	Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 複数歯製作する模型のスキャン方法が理解できる。
11	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	クラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
12	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いたクラウンのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	Cr. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたクラウンを適合させるまでの手順が理解できる。
15	Cr. 完成物(ワックスパターン)の比較	実習	wax upと、CAD/CAMの製作工程の違いについて理解できる。 複数歯製作時の接触点や咬合調整の違いについて理解できる。

科目名 (英)	小児歯科技工学 Particular Theories of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉山 智美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	
講師紹介	昭和大学歯科病院小児歯科の歯科医師として臨床経験を有する講師が豊富な経験を活かし、小児歯科技工学に必要な知識や理論について授業を行う。						
目的	ヒトの成長発育について、形態と機能の変化を学び、小児歯科医療および歯科技工についての知識を習得する。						
科目概要	小児歯科で用いられる、歯冠修復の種類と特徴、保険装置、スペースリテーナー、口腔習癖除去装置についても学び理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児歯科医療の特色を説明することができる。 ・ヒトの成長発育について、形態と機能の変化を理解することができる。 ・小児期の歯科技工の概略について説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「小児歯科技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (1/)	小児と歯科治療	講義	小児の歯科治療は様々な面で大人のそれとは異なることを紹介する。大人の歯並びは子ども時代から作られることを知り、この科目での重要な考え方を理解する。
2	歯・顎・顔面の成長発育	講義	歯・顎・顔面のそれぞれの成長発育を学び、専門用語を理解し、自身が説明できる事を目的とする。
3	乳歯の形態的特徴	講義	乳歯にみられる形態的特徴を学び、乳歯それぞれの歯の特徴を学び、永久歯との比較することでその特徴を理解する。
4	咬合誘導とは	講義	矯正歯科治療とは似て異なる、小児歯科の咬合誘導について理解を深める。
5	口腔習癖とは	講義	指しゃぶりなどの行為が歯列にどのような悪影響を与えるのか、また、悪影響をどのように歯科治療で改善できるのかについて理解する。
6	まとめ1	講義	ヒトの成長について復習し、練習問題の取り組みを通じて理解度を把握する。
7	まとめ2	講義	咬合誘導と口腔習癖について復習し、練習問題の取り組みを通じて理解度を把握する。
8 (11/24)	まとめ	講義	試験形式で知識の定着を確認する。

科目名 (英)	ビジネスコミュニケーションスキル Business Communication Skills	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし必要な知識を深める授業を行う。						
目的	ビジネスマナーや職場でのコミュニケーションなどの社会人基礎力について、演習を交えながら習得する						
科目概要	仕事をしていく上で必要なコミュニケーションについて、また社会人基礎力について実践的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をするうえで、必要なビジネススキルについて理解する。 ・目標設定することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容を確認し、教科書の該当ページをあらかじめ読んでおくことを推奨する。 【事後学習】毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	必要な資料は適宜配布する						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	コミュニケーション技法① 聞き上手	実習	コミュニケーションの基本として相手の気持ちを「聞く」技法について理解できる。
2	コミュニケーション技法② 話し上手	実習	論点をまとめてシンプルに「話す」技法について理解できる。
3	コミュニケーション技法③ 説得上手	実習	「聞く」「話す」を組み合わせ、相手を説得する技法について理解できる。
4	コミュニケーション技法④ 自分史づくり(自分らしさ)	講義	自分らしさを見つける技法について理解できる。 自己紹介や、履歴書への表現方法について理解できる。
5	歯科チーム医療における ビジネスコミュニケーション	講義	歯科医療の現場におけるチームコミュニケーションの重要性について理解できる。
6	歯科チーム医療における ビジネスコミュニケーション	講義	歯科医療の現場におけるチームコミュニケーションの重要性について理解できる。
7	マネー教育(社会のしくみ)	講義	社会人の基礎知識として必要な、社会のお金のしくみについて理解できる。 キャッシュレスやクレジット、信用取引について理解できる。
8	コミュニケーション技法⑤ わたしと私(ジョハリの窓)	講義	ジョハリの窓について理解できる。 他者理解、自己理解について理解できる。

科目名 (英)	モデリング&デザインⅢ Modeling and Design III	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村はじめ
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	クリエイターとして、またコンテンツ制作の企画運営の会社の社長として、エンターテインメント業界の最前線で活躍している講師が、CGデザインの技法や現場力について実践的な授業を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	現代においてゲームから映像作品にいたるまで、様々なコンテンツにおいて必須表現技術となっている3DCGを体系的に学びます。プロも使用するソフトウェア「MAYA」を用い、演習を中心に知識と技術の理解を深めて3DCG作品制作技術を体得します。技術だけでなく、共同制作が基本の3DCG現場における“クリエイターとしての教養&素質”を学友とともに育み伸ばします。						
到達目標	1: MAYAの基本操作の習得 2: モデリング技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能 3: 勉強した機能や知識を活用しオリジナル作品として成果物を制作できる						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は(1)成果物:60% (2)受講姿勢[授業内発言・授業協力など]:30% (3)小テスト:10%、とする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ガイダンス 【MAYA】実践:復習実技テスト	実習	授業構成、学習スケジュール説明、3DCG技術の全体像の再説明。 休暇明けのため、基本を操作をおさらいした実技テストを実施。 またアイスブレイクレクリエーションを予定。
2	【2D演習】人体デザインの学習&描画	実習	人体の基本的なバランスの勉強。 本格的な人体モデリングに入る前に、2Dにおいて比率を筆記にて学ぶ。
3	【MAYA】MODELING:人体モデリング (FACE)	実習	リアルな人体モデリングに必要な知識の勉強。 解剖学的に知識をもとに、人体モデリングを学ぶ。
4	【MAYA】MODELING:人体モデリング (BODY)	実習	リアルな人体モデリングに必要な知識の勉強。 解剖学的に知識をもとに、人体モデリングを学ぶ。
5	【MAYA】ANIMATION:フェイシャルセット アップ1	実習	フェイシャルアニメーションに必要な知識と技術の勉強。 人間の喜怒哀楽による表情変化と造形方法を学ぶ。
6	【MAYA】ANIMATION:フェイシャルセット アップ2	実習	フェイシャルアニメーションに必要な知識と技術の勉強。 人間の喜怒哀楽による表情変化と造形方法を学ぶ。
7	【MAYA】MODELING:キャラクタセットアップ (上半身)	実習	人体をアニメーションさせるためのリグの勉強。 スケルトンを使用し、アニメーションキャラクター作成方法を学ぶ。
8	【MAYA】MODELING:キャラクタセットアップ (下半身)	実習	人体をアニメーションさせるためのリグの勉強。 スケルトンを使用し、アニメーションキャラクター作成方法を学ぶ。
9	【MAYA】ANIMATION:FK/IK	実習	アニメーションキャラクターをより快適にアニメーションさせるための勉強。 FK/IKや制約を機能を使用し効率的なセットアップ方法を学ぶ。
10	【MAYA】ANIMATION:ノンリニアアニメーション	実習	アニメーション動作を再利用し活用する勉強。 制作した動作を組み合わせ効率的なアニメーション作成方法を学ぶ。
11	【MAYA】実践:背景制作1	実習	これまで学習したモデリング・テクスチャ技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。 (ラフモデル作成)
12	【MAYA】実践:背景制作2	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。 (ラフモデル作成)

13	【MAYA】実践:背景制作3	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。 (ハイモデル作成)
14	【MAYA】実践:背景制作4	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。 (ハイモデル作成)
15	【MAYA】実践:背景制作5	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。 (UV展開)

科目名 (英)	モデリング&デザインⅣ Modeling and Design IV	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村はじめ
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	クリエイターとして、またコンテンツ制作の企画運営の会社の社長として、エンターテインメント業界の最前線で活躍している講師が、CGデザインの技法や現場力について実践的な授業を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	現代においてゲームから映像作品にいたるまで、様々なコンテンツにおいて必須表現技術となっている3DCGを体系的に学びます。プロも使用するソフトウェア「MAYA」を用い、演習を中心に知識と技術の理解を深めて3DCG作品制作技術を体得します。技術だけでなく、共同制作が基本の3DCG現場における“クリエイターとしての教養&素質”を学友とともに育み伸ばします。						
到達目標	1: MAYAの基本操作の習得 2: モデリング技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能 3: 勉強した機能や知識を活用しオリジナル作品として成果物を制作できる						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は(1)成果物:60% (2)受講姿勢[授業内発言・授業協力など]:30% (3)小テスト:10%、とする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	【MAYA】実践:背景制作6	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。(テクスチャー作成)
2	【MAYA】実践:背景制作7	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。(テクスチャー作成)
3	【MAYA】実践:背景制作8	実習	これまで学習したモデリング技術を使用して背景を1から作成し、技術の体得する。(レンダリングなど)
4	ガイダンス:成果物課題Bについて	講義	テーマを決め「静止画でのオリジナル3DCG作品」を成果物課題Bとして提出してもらう。具体的なオリジナル作成工程を学び、作品制作を行う。今回はプレゼンテーション発表まで含めて、作品制作とする。
5	座学:オリジナル制作物工程&スケジュール管理	講義	自由度の高いオリジナル作品の制作工程を勉強。作品を提出期限までに安全に完成させるスケジュールの組み立て方を学ぶ。
6	【MAYA】作品制作におけるテクニック1	実習	オリジナル作品の発想方法や、クオリティを上げる勉強。具体的な企画立案方法、ブラッシュアップのアプローチ方法を学ぶ
7	制作時間:成果物課題B	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Bを本格的に制作に入ってもらおう。学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。
8	【MAYA】作品制作におけるテクニック2	実習	オリジナル作品の発想方法や、クオリティを上げる勉強。制作のモチベーション(やる気)の保ち方や上げ方を学ぶ。
9	制作時間:成果物課題B	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Bを本格的に制作に入ってもらおう。学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。
10	座学:プレゼンテーション資料作成&発表手法	講義	自分が考えた表現を技術によってどのように作品としてアウトプットしたかをプレゼンテーションスライド、発表のアピール方法までの手法を学ぶ。
11	制作時間:成果物課題B	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Bを本格的に制作に入ってもらおう。学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。
12	制作時間:成果物課題B	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Bを本格的に制作に入ってもらおう。学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。

13	制作時間: 成果物課題B	実習	課題で取り組んでもらっていた成果物課題Bを本格的に制作に入ってもらおう。 学んだ技術をどうオリジナル作品に活用するかを見守り、助言し完成へと導く。
14	講評会: 成果物課題B	講義	完成した成果物課題Aを一人ずつプレゼンテーション発表をしてもらい 学友とともに成長成果を共有する。結果を顧みて足りていない技術補完を目指す。
15	講評会: 成果物課題B ガイダンス	講義	講評会のつづき、総括を行う。 年度明けの授業のスケジュールや学習内容を告知し、備えてもらう。

科目名 (英)	CAD/CAM応用 I CAD and CAM Applied Practice I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	難羽 康博
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし、デジタル歯科技工について必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMや3Dプリンターを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。						
科目概要	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しができるようになる。 ・金属床義歯のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるようになる。 ・削りだしたワックスパターンおよびプリントしたレジンパターンの取り扱いが正しくできるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。 【事後学習】毎回の授業内容を復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オーダー入力&スキャニング	実習	オーダー入力&スキャニングの手順について理解する。
2	臼歯のデザイン－復習	実習	下顎6番のデザインについて手順やポイントを理解する。
3	臨床で役立つオクルーザルコンタクト－①	実習	下顎6番のデザインについて手順やポイントを理解する。
4	臨床で役立つオクルーザルコンタクト－②	実習	上顎6番のデザインについて手順やポイントを理解する。
5	臼歯ブリッジデザイン－①	実習	上顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－①
6	臼歯ブリッジデザイン－②	実習	上顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－②
7	臼歯ブリッジデザイン－③	実習	上顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－③
8	臼歯ブリッジデザイン－④	実習	下顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－①
9	臼歯ブリッジデザイン－⑤	実習	下顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－②
10	臼歯ブリッジデザイン－⑥	実習	下顎3本ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－③
11	前歯のデザイン－ミラーコピー－①	実習	上顎中切歯のデザインについて手順やポイントを理解する。－①
12	前歯のデザイン－ミラーコピー－②	実習	上顎中切歯のデザインについて手順やポイントを理解する。－②
13	前歯のデザイン－ミラーコピー－③	実習	上顎中切歯のデザインについて手順やポイントを理解する。－③
14	前歯のデザイン－ミラーコピー－④	実習	上顎ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－①
15	前歯のデザイン－ミラーコピー－⑤	実習	上顎ブリッジのデザインについて手順やポイントを理解する。－②

科目名 (英)	CAD/CAM応用 II CAD and CAM Applied Practice II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	難羽 康博
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所で臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし、デジタル歯科技工について必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMや3Dプリンターを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。						
科目概要	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しができるようになる。 ・金属床義歯のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるようになる。 ・削りだしたワックスパターンおよびプリントしたレジンパターンの取り扱いが正しくできるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	【事前学習】日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。			
参考図書	なし			【事後学習】毎回の授業内容を復習することを推奨する。			
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デジタルデンティストリー	実習	アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違い、歯科技工で使用されるCAD/CAMや3Dプリンターについての概要と操作手順を理解する。
2	クラウンのデザイン① ／スキャナの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナの使い方から上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のデザインについての操作手順を習得する。
3	クラウンのデザイン②	実習	GCアドバシステムを用いて、上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のデザインを完成させ、操作手順やポイントを習得する。
4	クラウンのデザイン③ ／CAMソフトの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、上顎右側第一小臼歯(ベニヤタイプ)のワックスパターンを削り出し、CAMソフトの操作手順やポイントを習得する。
5	クラウンのデザイン 復習①	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
6	クラウンのデザイン 復習②	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
7	金属床義歯のデザイン①	実習	金属床義歯のスキャンからフレームデザイン(大連結子、スケルトン部)の工程を習得する。
8	金属床義歯のデザイン② ／CAMソフトの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレームのセッティング方法を習得する。
9	クラウンのデザイン 復習③	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～ワックスパターンの削り出しまでできるように復習(マニュアル作成)する。
10	金属床義歯のデザイン③ ／3Dプリンターの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレーム出力と3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
11	金属床義歯のデザイン④ ／3Dプリンターの使い方	実習	デザインした金属床義歯のフレーム出力と3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
12	3Dプリンターについて	実習	3Dプリンターの取り扱い方法を習得する。
13	GCアドバシステムについて	実習	GCアドバシステムの概要、操作方法を習得する。
14	金属床義歯のデザイン 復習①	実習	前回までの学習内容をもとに、自力で金属床のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるように復習(マニュアル作成)する。
15	金属床義歯のデザイン 復習②	実習	前回までの学習内容をもとに、自力で金属床のデザイン～3Dプリンターによるレジンパターンの製作ができるように復習(マニュアル作成)する。